

# 「岳陽」と共に

第 15 号

発行日  
2023.11. 15  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

## ○人間社会における「最適(解)」のゆらぎ!!

これもまた、随分と日数が経ち、そのことを書く意欲もかなり減退しているが、一応準備していたことではあるので、若干書き記しておきたい!それは、過日行われた将棋の王座戦最後の対局の、ある種の裏話?のことである!

すなわち、その対局では、それまで7冠の藤井壮太九段が劣勢の状態で、前王座の永瀬拓矢九段が、ほぼ勝利かと思われたが(かのAIはそう指示していた!)、結果は、藤井7冠の勝利で終わった!永瀬九段の、ある一手(詰め)の間違いで、戦局が大逆転であったそうである!

判断ミス、脳の疲労?多分そういうことであつたということらしいが、注目されるのは、そのミス?が、藤井7冠の誘導とも言われていることである(具体的にはどういふことか分からないが!)!!要は、その時その時の、言わば「最適(解)」は、生身の人間の(思考の)やり取りの中では、そのように振舞えないこともあるということである!!

この場合は、「最適(解)」が、必ずしも勝利をもたらすわけではないということになるが、ここには、ある興味深い真実?が隠されているようにも思えるということである!!それは、たとえAIが最適(解)を示しても、人間は、それに応じられない場合もあるということ、さらには、わざとAIに最適(解)を出させ、その裏?をかいて、あることを実行することも出来るということである!!

その意味では、AIは、人間の思いの裏の裏?までは読み切れないということであるが、今後、このAIと人間の関係は、どのように推移していくのであろうか?かの「生成AI」の功罪も、おそらくそこに収束していくのかも!!

## ○古希過ぎた教え子が恩師訪ねる!しかも、奇跡も!!

過日(10/21)、面白いことが起きた!と言うよりは、普通では、ほとんど見ることの出来ない光景を、見させてもらったと言う方が的を射ているであろう!!しかも、そこでは、私にとっては、奇遇というか、ほとんど奇跡?に近いことまで起きてしまったということである!何という日であつたのであろうか?

そこですは、その光景であるが、同日久しぶりに、高校の同期とのズーム交流を行ったのであるが、一つの交流先には、いつもはそれぞれに参加している3人(共に福岡在が、彼らの担任(2年時?)であつたY先生(現在81歳!)の自宅(唐津在)を訪ねていて、その先生も交えた、予期せぬ再会の場となつたということである!

古希を過ぎた高齢者?(教え子)が、3人で申し合わせて、遠く離れた、高校の恩師宅を訪ねるということ自体が、そもそもあり得るのかということもあるが、さらに、その4人と、他の3人(福岡一人と沖縄)が、ズームで、昔話に花を咲かすということがあるなんて...!

しかも、驚いたことには、そのY先生が、私の出身大学である広島大学の先輩であつた!さらには、同じ寮生(薫風寮)でもあつた!そういうことが判明したのである(ほとんど奇跡?)!短い時間ではあつたが、当時の学生生活が、懐かしく思い出されたことは言うまでもない!

よもや、こういう展開になるうとは、夢にも思わなかつたが、ズームという文明の利器が、こんなことまで実現させたのである!いつかまた違った形で、思わぬ再会があればいいなあと、思つてもみた次第である!

## ○「教育」と「学習」の関係は、未来永劫続く!!

ところで、今となつては、かなり懐かしい思い出となるが、かつて、「教育」と「学習」の関係について、深く考えさせられることがあつた!それは、1980年代前後の「生涯教育/学習」論議のことであるが、課題の性格上、「教育」ではなく、「学習」とすべきだという論議が、かのユネスコも含めて、かなり広範囲に展開されたということである!

もちろん、そこでは、学校教育後の成人の学習に目が向けられたわけであるので(ユネスコ「成人教育推進国際委員会」、個人の自主的・自発的な学習が求められるというようなこともあつて、「生涯教育」よりも「生涯学習」の方が、より相応しいというような論調であつたように思う(現に、我が国においても、最終的には「生涯学習」という用語で、関係法制度、各種施策・部署名等が統一されていったことは周知の通りである)。

ただし、私は、その論議(の広がりや成果)が、学校での、子ども達の教育のことも含んでいるので、そうした法制度や施策・部署名ではなく、やはり全体としては「生涯教育」という言い方(考え方)が望ましいと考えていたし、その重要性についても、声を大にして述べてもきたわけである(ある時期までは、かなりの少数派であつたことを記憶している!学会においても!!)!!要は、子どもの教育であらうが、大人の学習(教育)であらうが(こちらは、支援)ということ、必ず明示していたが!、一人ひとりの生涯に亘る「学習」を鼓舞し、支援することが、「教育」であることを自覚し、そのための有効な施策とか組織づくりを行うことが必要であるということであつたわけであるその理論的支柱が、かの「タテ・ヨコの統合理論」であつた!。

ちなみに、学校(子ども達の)教育においても、「教育」のもつ「従属性(上から与えられる?)」を排除して、「学習」、さらには「学び」を主張する人達もいた!気持ちには十分に分かるが、他者からの望ましい働きかけ(これが教育の本質!)は必要であり、それが、社会全体の力ともなる!!ただ、問題は、その現実の姿であつたことは間違いない!!そこに、「教育」を忌避せざるを得ないような実態もあつたということである! (井上)

『O改めて、「国」とは何かを問う?』

先号でも触れたが、今、再び(本当は、もつと多く、否常にであろうが)、そこに生きる人々にとつて、自らが属している「国」とは何か?そういうことを考えさせられる事件・騒乱(はつきり言えば、戦争という名の「悲劇」)が頻発している!

そんな中、民族(人種、言語(文化)、宗教ないしは思想・信条(政治体制)、そして、歴史的経緯(戦争や植民地支配等)、それらによつて、多種多様な国々が、一応は「世界/国際社会」という枠組みの下に存在しているわけであるが、現実には、そこには、次のような形(極めて不安定な約束事?)があり、それら全体を含んで、「世界/国際社会」と言っているということである!

すなわち、まずは、「領土・領海・領空を有する」独立国家」というものを形成している。次が、そうした形を有しないまま、自らの生存圏域を維持する(統治委任国)。次が、民族(人種)としては存在するものの、他国の枠組みの中で生きていく(そうせざるを得ない!「自治区」等)。改めてよく見れば、我々人間は、そういう国家群状況の中で、生まれ育ち、生きていくわけである!

もちろん、すべての人々が、それぞれの「国(独立国家)」で生まれ育ち、生きていければ、それが一番よいのであろうが(ただし、結婚や就職等の関係で、他国で生きる、他国民となることは、個々人の自由意志によるものであれば、それも有りである!)、実際には、そのような自由や自己選択も叶わない人達がいる!そこに悲劇が起こり、繰り返されるのである!それが問題なのである!!

ただし、さらによく見てみれば、たとえそうしたことがあるにしても、極めつけの不幸は、そうした体制・状況の存在を顧みず(踏みにじつて)、他国、あるいはそこに生きる人々の権利や命を、一方的に、しかも武力で奪ってしまう国・勢力があるということである!

このようなことは、絶対に許されることではなく、

『それこそ「世界/国際社会」は、その阻止・撲滅に一致団結しなければいけない!それが、まさに「国際連合」の使命であり、存在意義でもあるわけである!』

だが、そこは、そこに表象される「世界/国際社会」とは名ばかり?言い換えれば、自らの利益の駆け引きの場となり下がっている?幾つかの「特権国家」の、時々都合のよい談合の場ともなっている?そのようにも言える!!

まあ、このように言っても、ほとんどが空しいものであることは、世界中の多くの人達が感じていることである。しかし、それで終わらせてはいけないのである!事実、多くの心ある人達は、自らの出来ることを精一杯やってきたし、これからもやっていくであろう!それが、単なる悲劇の繰り返しを、阻止してきたわけでもある!!

いずれにしても、人類は、6万年前にアフリカを出て、世界各地へと旅立っていった!そして今、目下の「世界/国際社会」を創り出している!だが、それはまた、その「グレートジャーニー」の途上なのかもしれない!!

『短歌に託して秋の憂い?今回は少し書き過ぎか!!』

・最適(解)? あるかも知れぬが、掴むは別? その神域? AIはどこまで?

・古希となり 訪ねられることあつても 訪ねることなし? 違いは何?

・教育と学習 その対立? 何故に生まれる? 世代のつなぎの 難しき!!

・国益? 同じ国として 何故違ふ?

そこにありしは 哀しき人の世!!

・続いている? グレートジャーニー!!

時間と距離では 終わってはいても!!

『特別コーナー』堂本彰夫の古代史旅枕(15)

『倭国大乱』と、そこにおける「大幡主」の謎(怪?)!!

先号では、かの「倭国大乱」及びその前後の顛末?は、「日記」(直接的には「日本書紀」)において、件の「準備されたストーリー」に、絶対に投影されているということを述べたが、ここの辺りの経緯や諸部族の動きが、具体的にどうであったのかということが、改めて問われてくることは言うまでもない!そこに、どうにも訳の分からない人物(神)がいる!それが、「大幡主命」(初代奴国主・大若人命、武埴安彦命とも?)である!

ところで、実は、その神(命)を祀る神社(「櫛田神社」等)ただし、有名な博多の櫛田神社は、何故か?伊勢からの勧請という!)が、北部九州(現在の福岡県・佐賀県)に数多くあるのであるが(ただし、祭神の入れ替を背後に隠されている)、かの2世紀末の「倭国大乱」によつて、その命(神)を王としていた「倭国」は衰退を余儀なくされ(政權移譲?)、彼ら(その王族?)は、近畿そして、伊勢の方へ移動しているということらしいのである(事実、その伊勢には、櫛田神社と櫛田川という地名がある!)!!

とは言え、そんな彼(神?)が、今日まで、その北部九州に、多種多様に?祀られているということになれば、この近辺の人達は、その「大幡主命」(大若人命)をこよなく敬愛しており、その時々々の権力者・支配者の目を掻い潜つて、丁重に祀っているということにもなる!!なお、かの伊勢地方の豪族とされている「渡会氏」(伊勢神宮外宮の宣司)は、本来は「磯部氏」とされ、驚くなけれ、かの「伊都国」の出身とされている!!

また、例の「丹生氏」(丹の発掘・精製氏族)も、その伊都国の出身と自称しているようであり(「和歌山県御郡 丹生津神社」等)、北部九州からの移動(移民?)の事実が、決して見逃せないものとなっている!!

またまたその子細については、よく整理出来ないが、そのような史実が「こ」で取り上げている「倭国大乱」と、どのような関係となるのか?その中でも、「大幡主命(大若人命)」が、どのような動きをなしたか?その辺りを、今後調べていきたいと思つている次第である!(つづく)(堂本)

『編集後記』沖繩は、少し涼しくなってきましたが、みなさんの方はいかがですか?危惧された、その後の台風襲来もなく、変わらぬのんびりした日々ですが、パソコン生活は、さらに拍車がかかっています(YouTube視聴も加わつて!)!!目と腰、そして下肢の具合もあります、今はやるのみです! (弁上ノ堂本)